







54 日本の森林について考えよう 株式会社オカムラ

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否					
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校								理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知 的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由	言 語 障 害	自 害 情 緒 障 害												
○	○	○			相談	相談	相談	相談	相談	相談	相談		○			○	○	○	○				
講義時間				応相談							1日可能回数			(応相談) 1-4授業									
実施時期条件など																							
実施地域				応相談																			
学校に用意してもら				テレビ等のパワーポイント投影のための機器、接続ケーブル(HDMI)																			
安全上の注意事項																							
H P				https://www.okamura.co.jp/																			

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>・「持続可能な社会づくり」の担い手(change maker)になるため、 ”人を取り巻く環境に関する課題”への気づきにつながるきっかけづくり</p> <p>自然や社会は「多様性」があり「相互に関わりあい」支えあうことで成り立っている。 そして資源には「有限性」があることを知るにより、これから自分たちのすべきことを考えるきっかけとする。</p> <p>【アピール】</p> <p>森林資源を原材料に利用している企業として、生物多様性保全と森林資源の持続可能な利用をめざす取り組みを全社で推進。取り組みを通して得た知見、また、メーカーとしてモノを作っている側の視点での知識や工夫を伝え、身近なモノを通して森林のためにできることがあることを伝える。 ・SDGsとの関連や目標への貢献について織り交ぜて授業をすることが可能(相談可)。 ・事前に学校と相談し、要望に応じた内容へのアレンジも含め、できる限り楽しく、主体的な行動につながるような授業にしたいと考えている。</p>	<p>【写真】</p>  
---	---




授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>(1)こんにちは、オカムラです ねらい:何の会社かな? 当社製品を写真などから身近に感じてもらう (2)森ってどんなところ? ねらい:森とは何か、森についてイメージをふくらませ、身近に感じてもらう (3)日本の森と世界の森 ねらい:世界の森の現状を知る ※資源の有限性 *クイズで考えよう! 日本の木材はどこから輸入しているかな?</p> <p>【発展~まとめ】</p> <p>(4)日本の森と守り方 ねらい:日本の森の現状を知り、森と人間の生活は「植え、育て、使う」サイクルが重要と知る ・日本の森の約40%は私たちが豊かな生活を送るために木を育てている人工林です。 ・森の手入れ(間伐など)と成木までの流れを模型で見てみよう! (5)家具に使われる木の工夫 ねらい:木の利用方法とその工夫を理解する ・教室のイスや机に使われている木にはどんな工夫があるかな? 実際の材料を見てみよう、触ってみよう! (6)身近にある木を使ったもの ねらい:身近な木製品にも、木が工夫されて使われていることに気づく ・今日から森のためにできること、感想を述べさせることで、振り返る。</p> <p>【関連のあるSDGs】</p>    








55 一個の石けんから地球環境を考える 太陽油脂株式会社

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校						理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由	言 語 障 害											
	○	○	○	相談							○	○		○	○	○	○		○	相談	
講義時間				2コマ						1日可能回数			(2回)								
実施時期 条件など				土日・祝日、年末年始、夏季休暇を除く 月曜日～金曜日(10:00～15:00)、当日の準備時間(60分程度)																	
実施地域				横浜市近隣地域(要相談)																	
学校に用 意してもら				モニター用のテレビ又はプロジェクター、スクリーン、繋ぎ込みコード(HDMI)など(要相談) 実施場所(理科室又は図工室等、要相談)																	
安全上の 注意事項				実験道具(石けん液・お酢・植物油脂)は人に向けて使わない。 実験およびワークショップの際には講師の指示に従う。																	
H P				https://taiyo-yushi.co.jp/																	

授業のねらい・アピール

【ねらい】	【写真】
<ul style="list-style-type: none"> 石けんの作り方、原料・性質・太陽油脂のSDGs取組みを講義と実験、体験(手作り石けん)を通じて学び、人と環境にやさしい石けんの理由について理解を深める。 身近なSDGs貢献行動(エシカル消費、省エネルギー)を提起する。 働く人の実体験を聞くことで、仕事に対する理解を深め、自身の将来の選択肢を広げる。 実験を通じて、生徒が主体的に学習する。 	 
<p>【アピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ毎の実験を行いながら石けんの特性を知ることが出来る。(乳化、洗浄効果、感染予防、分解性の速さ、環境負荷の少なさ) 身近な行動で出来るSDGs貢献を知ることが出来る。 石けんの製造過程動画を通じて、製造業(メーカー)の仕事を知ってもらい、職業や進路について考える機会を得られる。 実験の予想や要因を生徒間でグループディスカッションしてもらい、主体的に学習できる。 <p>・手づくり石けんが出来る。(ワークショップ:石けんテップ使用の手づくり石けん)</p>	<p>◆こねこね石けんの作り方◆</p> 


授業の進め方

【導入】
<p>基本の流れ: 講話(65分)ワークショップ(25分)または講話(65分)グループディスカッション(25分)計90分: パワーポイント資料使用</p> <p>1) 太陽油脂の紹介</p> <p>2) 石けんって何だろう? ①原料、つくり方・石けんと法律 ②石けんの始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> 石けんの原料や歴史をクイズを交えながら説明する。 製造過程(工場)の説明(動画)
【発展～まとめ】
<p>③なぜ汚れが落とせるの?(実験) ④石けんで手洗い 感染予防 ⑤石けんの性質(実験)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験を通して石けんの界面活性の力を理解する。・石けんの特性を理解する。(酸分解、生分解性) <p>3) SDGsと太陽油脂の取りくみ</p> <p>4) ワークショップ(こねこね石けんつくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なSDGs貢献を知り今後のSDGs活動を考えるきっかけにする。(省エネ・エシカル消費) 手づくり石けんを持ち帰り使用する。(学んだことを家族で情報共有) <p><家庭科・理科授業の場合> 以下を中心とした内容にカスタマイズ可能。</p>
【関連のあるSDGs】
      



56 環境へ配慮した高速道路の取組み 中日本高速道路株式会社 東京支社

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校					理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由											
			○											○		○			相談	
講義時間				応相談						1日可能回数			(1回)							
実施時期条件など				<ul style="list-style-type: none"> ・実施希望時期の3か月前に事前連絡をお願いします。 ・講義時間は講義形式主体で基本的に1コマまでの実施を予定。 																
実施地域																				
学校に用意してもら				スクリーン、プロジェクター																
安全上の注意事項																				
HP				https://www.c-nexco.co.jp/corporate/																

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>普段利用している道路、特に高速道路のどこに環境に配慮した取組みがあるのかについて学習する。</p>	<p>【写真】</p>  <p>令和3年度の授業実施状況</p>
<p>【アピール】</p> <p>高速道路に関する事業を通じて、さまざまな環境配慮の取組みを行っており、当社ならではの環境活動を伝える。</p>	


授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>講義にて、高速道路に関する事業と会社として環境に対する方針(取組姿勢)を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社概要 ・会社の環境方針
<p>【発展～まとめ】</p> <p>講義にて、下記の具体的な環境配慮の取組を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路ネットワークの整備によるCO2削減の取組み ・高速道路上の清掃により発生したごみなどの廃棄物のリサイクルの取組み ・高速道路の建設に伴うエコロード(自然環境に配慮した道)づくりの取組み ・高速道路を通じて取り組んでいる環境への配慮事例の紹介 <p>テキスト内でクイズ形式等を用いて、理解を深める。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p> </div> </div>





57 キミはどっち派？「便利なくらし」と「ゆたかな自然」～海から考える地球のミライ～ 株式会社カネカ

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校					理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由											
	○	○	相談											○	○	○			○	○
講義時間				1コマ						1日可能回数			(2回)							
実施時期条件など				なし																
実施地域				全県で実施可能																
学校に用意してもら				スクリーン、プロジェクター、配布用印刷物(データは当社が用意する)																
安全上の注意事項																				
HP				https://www.kaneka.co.jp/																

授業のねらい・アピール

【ねらい】	【写真】
<p>子どもたちに地球環境保全への課題意識が芽生え、日常からサステナブル活動に取り組むきっかけになることを狙いとした授業。便利な生活を送っている自分自身と地球環境の関わりを認識しながら、環境を守る大切さを学ぶ。</p> <p>主体的・対話的に学ぶことができる授業構成。自分たちの未来を想像しながら「便利な生活と環境を守る生活、どちらが大事か」という答えのない問いについて考える。</p>	
<p>【アピール】</p> <p>プラスチックの便利さと、適切な処理がされないことによる汚染問題を認識し、便利なくらしと豊かな自然の両立について考える授業。双方を実現する解決策の1つとして、当社が開発したカネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®を題材にし、「生分解性」を分かりやすく学べる。</p>	



授業の進め方

【導入】
<p>プラスチックでできている身近な物を振り返り、その便利さを認識する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な物が何の素材でできているのかクイズを出す ● 文具や情報機器、家電、医療品、乗り物などを示してプラスチック製のものを使っている普段の生活を振り返り、プラスチックの便利さを認識する
【発展～まとめ】
<p>プラスチックごみが環境汚染の原因の1つであることを動画で知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プラスチックごみは微生物によって分解されず、海や土に残ってしまうことを知る ● 海洋汚染などによって生物が減少すると、巡り巡って私たちの生活に影響があることを知る ● プラスチックのある生活と、環境汚染を減らす生活の両立の難しさに気づく <p>生活の便利さと環境保護の大切さについてグループで話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループになって、生活を便利にすることと環境を守ること、どちらを選ぶか話し合う <p>生活の便利さも環境も守ることができる素材について動画で知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海水中、土中でも微生物によって分解される素材(生分解性ポリマー)を知る ● 実際の事例から、環境を守ることが生物や未来の私たちの生活を守ることにつながることを理解する
【関連のあるSDGs】
   





58 「動物かくれんぼ」保護色実験と食べた生きもの調べ 特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校						理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知 的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由	言 語 障 害											
○	○	○									○			相談	○		○	○		相談	相談
講義時間				2コマ(1コマに短縮は応相談)						1日可能回数			(1回)(1コマなら2回は応相談)								
実施時期 条件など																					
実施地域																					
学校に用 意してもら				パソコン、大型テレビまたはプロジェクター／スクリーン、カラーマジック(サインペン)、ハサミ																	
安全上の 注意事項				作業安全上のリスクは少ない。																	
H P				https://kankyo-leader.org/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>生物多様性の根幹である食物連鎖(食物網)の中で動物が生き残る仕組みとして保護色があることを学ぶ。食生活が多様な生物資源に支えられていることを理解し、生物多様性の大切さを学ぶ。併せて、食品ロス低減に気づく。</p>	<p>【写真】</p>  <p>色々なミニこいのぼりを作ってサンゴ礁に隠す</p>  <p>食べた生き物をみんなでまとめて発表する</p>
<p>【アピール】</p> <p>工作の工夫、自作品を使った保護色効果の体験、食生活と言う身近な体験からの気づきなど、実感しながら楽しく学習する機会を提供する。食品ロス低減を促すとともにSDGsについても分かり易く触れる。</p>	

授業の進め方




<p>【導入】</p> <p>動物が食べるためや、食べられないために保護色を使って隠れることをクイズ形式で学ぶ。</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫の切り絵で四季の自然の中の保護色効果を自ら確かめる。(自然の写真を用意する) ・ミニこいのぼりを工作し色の組合せも考えながら色塗りし、海中やサンゴ礁の中での保護色効果を実験で確かめる。(海の写真を用意する) ・食べた生きもの調べ「昨日何食べた？」身近な料理食材を生物資源別にまとめ、多様な食材を食べていることへの気づきを促し、食生活を支える身近な生きものつながりに触れる。(グループ作業) ・食品ロスやSDGsについても平易で簡単な解説をおこなう。最後に「日々の食事を、好き嫌いなく、残さず、生き物たちに感謝していただく」ようメッセージを伝える。
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>2 食料 安全保障</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくって 消費する責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさ を守る</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさを 守る</p> </div> </div>

59 身近な川や海。そこに棲む生き物を調べよう!






NPO法人海の森・山の森事務局

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校						理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知 的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由	言 語 障 害											
○	○	○	○	○	○		○			○	○			○		○	○	○	○	○	
講義時間		応相談									1日可能回数		(2回)								
実施時期 条件など		実施時期はなるべく年内のうち。ただし1月2月に実施した例もあり。条件は特になし。学年参加の場合は 応相談																			
実施地域		できれば近くに川や海などがあることが望ましい																			
学校に用 意してもら う		テレビモニター(プロジェクター&スクリーンでも可)、100V電源、HDMIケーブル、ハサミ、セロハンテープ 必要な場合は水槽等の飼育セット																			
安全上の 注意事項		川や海など水辺での採集の場合、救命胴衣等は講師が用意する。(学年での場合は応相談)																			
H P		https://www.uminomoriyamanomori.com																			

授業のねらい・アピール

【ねらい】	【写真】
<p>身近な水辺にどんな生き物が棲んでいるのか?、どのような生態なのか? どのようにしたら捕まえられるのか? みんなで考えて実施する。生き物を知ることで生物多様性を学ぶ。</p>	  
【アピール】	
<p>もと漁師の経験もあり、サカナ、エビ、カニなどを捕まえる術に長けている。また釣りの魚の図鑑も何冊も執筆しており、生き物についての知識も豊富。適切なエサなどを用いた罠を仕掛け、生き物をみんなで捕まえて観察する。</p>	

授業の進め方



【導入】
<p>川や海に棲む生き物たちについてのレクチャー。教室内の大型テレビモニターに写真を映し出して解説。みんなで捕まえ方を考えて、ペットボトルなどを改造した罠を作る。罠を仕掛けたり、網などを用いて生き物を採取する。</p>
【発展～まとめ】
<p>捕まえた生き物を調べ、観察したり、スケッチしたり、写真を撮ったりして記録する。飼育が可能なら、教室に持ち込んで飼育し、観察をする。飼育が難しい場合は、観察後に放流する。子どもたちが子供達なりの図鑑を作ったり、水族館として展示するなど、子どもたちのアイデアが活かせる。</p>
【関連のあるSDGs】
    

60 水の中の生きものウォッチング


特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会

対象学年											活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校							理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害	自閉・情緒障害											
○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○				
講義時間				2コマ							1日可能回数			(1回)								
実施時期条件など				5月～11月、1回の授業は2クラス以内(約60名以内)																		
実施地域				県内全域																		
学校に用意してもら				大型モニター、パソコン、顕微鏡、虫眼鏡、バケツ、小容器など、車駐車1台																		
安全上の注意事項				水辺は滑りやすく、特に深みがある場合は注意が必要																		
HP				https://www.forest-kanagawa.jp																		

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>校内の池やオフシーズンのプールなど、身の回りの水辺には、普段目にする事のない水生昆虫、プランクトンが生息している。これら水生生物を探し観察することで、生き物のつながり、環境とのかかわりを学ぶ。</p>	<p>【写真】</p>  <p>水辺やプールで水生生物を採取</p>
<p>【アピール】</p> <p>子どもたちに自然とふれあう楽しさ、生き物に対する興味を持たせることができる。</p> <p>身の回りの自然の中に、多様な生き物がいることに気付くことで、自然の大切さを学ぶ。</p> <p>生き物のつながり、生態系について学ぶ。</p>	<p>【写真】</p>  <p>教室で生物を抽出</p> <p>解説</p>

授業の進め方




<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下見を行い、採取場所の確認、道具類の確認、授業の進め方について打合せをおこなう。 ・授業当日、教室で授業の目的と進め方を説明する。 ・水辺に移動し、道具の使い方、注意点を説明する。
<p>【発展～まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池やプールで、手網やタモ網を使い、水底の落葉などと一緒に水生生物を採取する。 ・またプランクトンネットを用いて、プランクトンを採取する。 ・採取した生物を教室に持ち帰り、白バットに入れて抽出する。 ・抽出した生物は水生生物検索シートで同定する。プランクトンは顕微鏡で観察する。 ・観察した結果や資料などを活用し、水の中の生物のつながりや生物と環境とのかかわり(生態系)について解説し、参加者の理解を深める。
<p>【関連のあるSDGs】</p> 

61 土の中の生き物ウォッチング


特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会

対象学年											活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校							理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害	自閉症											
○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○				
講義時間				2コマ							1日可能回数			(1回)								
実施時期条件など				5月～12月、1回の授業は2クラス以内(約60名以内)＝大規模校(3クラス以上)不可																		
実施地域				県内全域																		
学校に用意してもら				軍手、手持ちシャベル、大型モニター(プロジェクター)、パソコン、小型容器、虫眼鏡、ゴミ袋など																		
安全上の注意事項				ハチやムカデ等危害を加える生物に注意																		
HP				https://www.forest-kanagawa.jp																		

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な落ち葉や枯れ草、土の中の、土壌生物の存在と多様性に気付く。 ・調査した結果や資料などを活用し、生物と環境とのかかわり(生態系)について理解を深める。 	<p>【写真】</p>  <p>校庭などで土壌生物を採取</p>
<p>【アピール】</p> <p>私たちの足もとには思いもよらないにぎやかな世界が広がっている。土の中の生き物は、よく見るとおもしろい姿形をしたものがたくさんいる。しかも、かれらは生態系のなかで大切なはたらきをしている。この授業で、生態系を支える土の中の生き物について理解を深める。</p>	<p>【写真】</p>  <p>教室で生物を抽出</p>  <p>解説</p>


授業の進め方

<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土を教室に持ち帰り、白いシートに広げ、生物を採取する。 ・採取した生物を観察し、ワークシートに記入。(同定に当たっては講師が指導)。 ・小型の生物は、デジタル実体顕微鏡で拡大し、大画面に投影して観察する。
<p>【発展～まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土を教室に持ち帰り、白いシートに広げ、生物を採取する。 ・採取した生物を観察し、ワークシートに記入。(同定に当たっては講師が指導)。 ・小型の生物は、デジタル実体顕微鏡で拡大し、大画面に投影して観察する。 ・ワークシートに記載された土壌生物は生息環境毎に点数化されており、見つかった生物の点数を集計することで、その土地の「自然の豊かさ」を知ることができる。 ・調査を通して、生物の多様性と環境と生物のつながりについて考える目を育てる。
<p>【関連のあるSDGs】</p> 



62 クマ除けストラップ ―クマと人間の共存共栄を考える― 特定非営利活動法人NPOブルーアース

対象学年					活用可能教科						実施方法			対応可否							
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
	○	○	○	○												○	○				
講義時間				1コマ ~ 2コマ						1日可能回数			(3回)								
実施時期条件など				特になし																	
実施地域				特になし																	
学校に用意してもら				スクリーン(ディスプレイ)、プロジェクター、HDMIケーブル、ハサミ、ホチキス、ものさし(定規)、ボールペン(または細いマーカー)																	
安全上の注意事項				特になし																	
HP				なし																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】 クマ出没が社会問題になっている。クマと人間が共に生きる方法を考える。 熊の生体や習性を知れば、どう対処したらよいかアイデアがでる。その1つの方法として、クマ除けストラップがある。空き缶とナットを使って高い音の出るクマ除け缶を作る。また、牛乳パックを加工して笛を作る。熊と共に生きるためには様々な取り組みが必要であることを学ぶ。そして、地球温暖化、森林破壊、生態系の変化との関係について考える。</p>	 <p>クマ除け缶 + 牛乳パック笛</p>
<p>【アピール】 熊の生体や習性を学び、熊との共存の取り組み事例を紹介する。そこからどのような取り組みが必要かひとり一人が考える。クマ除けストラップを作ることで、日常生活の中にあるもので、安価で簡単にクマ除け缶や牛乳パック笛が作れることを体験する。</p>	<p>クマ除けストラップ = (クマ除け缶 + 牛乳パック笛) × 紐</p>


授業の進め方

<p>【導入】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熊出没が社会問題となっている 2. 熊の生体や習性を知る 3. 熊出没の傾向と対策 4. 熊対策の一例として、クマ除けストラップを作る(日用品で簡単に作ることができることを確認する)
<p>【発展～まとめ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 熊対策の事例紹介 6. 地球温暖化、森林破壊、生態系の変化も影響している！ 7. ひとり一人何ができるか？考える 8. 登山、キャンプ、里山などではどうしたら良いか？
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさを 保つ</p> </div> </div>

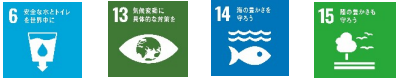
63 土の働きの実験から学ぶ自然保全 NPO法人シニアボランティア経験を活かす会

対象学年					活用可能教科						実施方法			対応可否							
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校						理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知 的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由	言 語 障 害											
	○	○	○	○												○	○				
講義時間			応相談						1日可能回数			(2回)									
実施時期 条件など			実験は1クラスを単位として行い、グループで取り組む形式とする。 実験は理科室で実施し、相談のうえ2種類の実験から1つを選んで行う。																		
実施地域			全ての地域で実施は可能																		
学校に用 意してもら 安全上の 注意事項			プロジェクター、スクリーン、実験2を選ぶ場合は、顕微鏡とライト																		
H P			https://jicasvob.com																		

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>日本は豊かな自然の土・水・緑に恵まれた国であることの価値を理解してもらおう。その対比として、土や水が限られた珊瑚礁のマーシャル諸島を紹介し、環境の違いから自然の価値の違いに気づいてもらい、国際的な視野を育てる。その学習の一環である実験として、身近な道具を使って『土が持つ力』を科学的に確かめ、自分の住む地域の自然を守る重要性を実感してもらおう。実験・観察・考察を通して、STEAMの活動を育む。 注)STEAM(科学・技術・工学・芸術・数学を統合した学習)を軸とした探究的な学びになっている。</p> <p>【アピール】</p> <p>身近な材料を工夫して実験できるようにする。学校の状況に応じて、以下の2つの実験から選択して実施する。 実験① ペットボトルで『簡易ろ過装置』を作成し、泥水を透明な水にする 実験② ペットボトルで『簡易ツルグレン装置』を作成し、土の中の土壤生物を観察する。注)ツルグレン装置:土の小さな生き物を下の容器に落として集める道具</p>	<p>【写真】</p> 
--	--



授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>足元の“土”。私たちは毎日踏んでいるけれど、本当はスゴイ存在である。土は水をきれいにし地下水としてため、植物を育て、私たちの暮らしを支えてくれる。しかし、そんな当たり前は世界では当たり前ではない。たとえばマーシャル共和国には、土がほとんどない。だからこそ、私たちは今ある自然を大切に守る必要がある。今日は、その“土の力”の一つを、実験を通して実際に見てみよう。</p> <p>【発展～まとめ】</p> <p>ペットボトルで 実験①ろ過装置を作り、泥水を流して水の変化を観察する。ろ過をしている間にマーシャル環礁の映像を見て日本との環境の違いを考える。その後、ろ過前後の水を比べて結果を共有する。実験②:簡易ツルグレン装置を組み立て、土の中の土壤生物をライトを使って追い出している間に、マーシャルの人々暮らしの映像を見る。その後、土壤生物を観察する。学校に実験①か②をのどちらかを選択してもらおう。STEAMの側面から学習し、「土の働き」を多面的に理解してもらい、その価値に気づいて自然を守る行動へつなげる。</p> <p>【関連のあるSDGs】</p> 
--





64 おいしい魚の裏側で何が起きている？-水産資源と海鳥のいま- サステナビリティ教育研究会

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
			○	○							○	○			○	○			○	○	
講義時間				2コマ						1日可能回数			(1回)								
実施時期条件など				スケジュールが合えば特になし																	
実施地域				横浜、川崎、横須賀、藤沢、小田原。その他は応相談。																	
学校に用意してもら				PC、スクリーン、マイク、プロジェクター、長机、その他相談																	
安全上の注意事項				教室内につき通常授業と同様の注意																	
HP				https://www.facebook.com/yamaumisakana																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>地球温暖化による海水温上昇と乱獲により魚をはじめとした水産資源が減少している。この課題を克服するために国や民間で取り組んでいることを学び持続可能な社会のあり方に気づく。また、魚以外の海洋生物の例として、海鳥に対しても人間活動が与えている影響を学び、生物多様性の保全に対する意識の向上に繋げる。</p>	<p>【写真】</p>  <p>授業風景（小学校）</p>  <p>アホウドリ類の親子</p>
<p>【アピール】</p> <p>海洋生態系は、私たちが食する水産資源のみでなく、海鳥を含む多様な生物によって構成されている。水産資源の減少は私たちの食生活にも大きく影響するため回避するための方策を考える。</p> <p>一方、海鳥が直面している問題（気候変動、漁業による混獲）をSDGsと関連付けながら、普段の生活の中で取り組めることに気付く。</p> <p>2025年度中高一貫校にて実施。好評を得た。</p>	


授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>前半水産資源部分 ①寿司ネタと魚そのものを結びつけるクイズ 後半海鳥部分 ①海鳥に関するクイズ、②鳥類の中でも特に海鳥に絶滅危惧種が多いことを説明（原因は何か？）</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>発展 前半①貴重な食料資源である水産物に関し、世界・日本の状況を知る。資源減少に関し、世界や国、民間ではどのような取り組みをしているか学ぶ。 後半①人間の活動が遠くにいる海鳥にも影響を与えていることを知る、②普段の生活で取り組み可能なことが海鳥及び生物多様性の保全に繋がることがわかる。③これらの取り組みが、SDGs目標にも含まれていることに気付く。</p> <p>まとめ 海の生態系は魚だけでなく海鳥なども重要な生き物であることを再認識し、これらの減少と生物多様性の損失に歯止めをかけるための取り組みを考え実行につなげる。そして、これらの取り組みを行うことがSDGsのゴールにつながることを知る。海鳥担当はバードライフ・インターナショナルの鈴木</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>2 飢餓をゼロに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくばないで つかう責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさ を守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 持続可能な開発 のためのパートナーシップ</p> </div> </div>

65 身近な里山を学ぼう 名瀬谷戸の会



対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校					理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由											
○	○	○	相談	相談							○	○	○	○	○	○	○	○	相談	相談
講義時間			応相談							1日可能回数			(応相談)							
実施時期条件など			応相談																	
実施地域			応相談																	
学校に用意してもら			室内で実施の場合はPC、プロジェクター、スクリーン等																	
安全上の注意事項			当法人の安全管理マニュアル等																	
HP			なし																	

授業のねらい・アピール

【ねらい】	
<p>日本人の原点である里山の生きものたちの特徴を観察しながら、それらに関わる歴史、文化、伝統も学ぶ。里山の保全管理に必要な知識や技術を学び、里山の自然生態系も学ぶ。同時に「森の紙芝居」で里山の森の働きも学ぶ。</p>	
【アピール】	<p>森林インストラクターの資格を持つ専門的な里山の知識を持つ会員により組織運営されている当会は横浜市の森づくり団体として「名瀬北特別緑地保全地区」の保全管理を実施している。身近な里山で子どもたちと一緒にかけがえのない大切な里山の物語りを次の世代へ伝えて行きたい。</p>

名瀬の里山における里山環境教育

授業の進め方


【導入】
<p>オープニングではアイスブレイキング目的で、講師全員が子どもたちにニックネームで自己紹介をする。少人数制の班毎に「森のクイズ」や「森の紙芝居」により里山の大切な働きや自然環境を説明して、生物多様性への理解を深めるようにする。</p>
<ol style="list-style-type: none"> ①身近な里山での自然探し：里山の生きものたちの不思議を発見して、その感動を体験する。 ②里山の自然の不思議の意味を考える：里山で発見した植物等の生き方や生存戦略等について学ぶ。 ③「身近な里山を学ぼう」の基本理念：「本物から学ぶ」という環境教育の基本理念のもとに、教室内で各学年の教科書に登場する生きものたち、自然の仕組み、里山の昔の暮らし等を身近な里山で実体験することにより学習の一層の相乗効果を狙う。 ④里山保全活動体験：大人と共に鋸やロープ等で林地の保全管理作業を支援する。 ⑤草花のお遊びやネイチャーゲーム：里山の自然の仲間たちの愛護。
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>14</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15</p> </div> </div>

66 身近な自然を学ぼう



NPO法人全国森林インストラクター神奈川県

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校					理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由											
○	○	○	相談	相談							○	○	○	○	○	○	○	○	相談	相談
講義時間				応相談						1日可能回数										
実施時期条件など				応相談																
実施地域				応相談																
学校に用意してもら				室内で実施の場合はPC,プロジェクター、スクリーン等																
安全上の注意事項				当法人の安全管理マニュアル等																
HP				https://www.jfik.org/																

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>身近な自然環境の植物等の特徴を観察しながら、それらに関わる歴史、文化、生活等を学ぶ。今まで気が付かなかった多くの発見、不思議、感動、わくわく感があるので、身近な自然や森を知るほど親しみがわき、その自然の仲間たちと一緒に生きていることを実感出来る。</p>	<p>【写真】</p>  <p>「横浜自然観察の森」における少人数環境教育</p>
<p>【アピール】</p> <p>子どもたちが身近な自然体験で心地よく過ごし、楽しみ、感じ、自然を深く知ることが出来るように、子どもたちと一緒に様々な面からかけがえのない大切な自然の物語を次の世代に伝えて行きたい。</p>	

授業の進め方



<p>【導入】</p> <p>オープニングでは子どもたちが緊張しないように、アイスブレイキング目的で講師一人一人がニックネームでの自己紹介をして、各班少人数制のもと森のクイズや森の紙芝居により自然環境、森の働き等を説明し、生物多様性への理解を深めるようにする。</p>
<p>①身近な自然探し：校庭、学校林、公園、森、田んぼ、畑、原っぱ、社寺林、自然公園などで子どもたちと一緒に自然の不思議、発見、感動を体験する。</p> <p>②「身近な自然を学ぼう」の基本理念：「本物から学ぶ」という環境教育の基本理念のもとに、各学年の教科書に登場する生きもの、自然現象、自然の仕組み、動植物の生態系等を校外学習で森林インストラクターと一緒に実体験の学びと、教室での担任の先生からの学びにより一層の相乗効果を狙う。</p>
 

67 学校周辺の自然を再発見しよう




NPO法人三浦半島生物多様性保全

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校					理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由											
相談	○	○	○	○										○		○	相談	○	○	相談
講義時間				応相談						1日可能回数			(応相談)							
実施時期条件など				実施時期は授業内容により変わるので応相談。																
実施地域				横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町、鎌倉市。																
学校に用意してもら				可能ならばプロジェクター、スクリーン、救急セット、授業内容によっては観察会道具等。																
安全上の注意事項				フィールドワークに出る際は、学区内散策程度のリスクマネジメント																
HP				https://mbcn-m.com/																

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>市民の環境意識は高まりつつあるものの、自然とのふれあいや守り手の育成についてのサポート体制は未熟である。昨今の環境体験プログラムは効率化・パッケージ化と郷土の不在化が進み、自分の生まれ育ったみどりをどう知り、活用し、守るかの基本が薄れつつある。自然の中で遊びながら自然に対する興味や理解を深め、生態的地位や保全の必要性についてホンモノを学ぶ機会を提供する。</p> <p>【アピール】</p> <p>三浦半島の生物多様性保全活動を行っている自然環境の専門家が講師となり、それぞれの学校周辺の自然環境を教材にオーダーメイドの授業を行う。授業内容は希望に応じて御提案する。継続的な活動のサポートも可能。総合的な学習の時間や理科の時間に御活用いただける。</p>	<p>【写真】</p>  
--	---

授業の進め方



<p>【導入】</p> <p>遊び、守る：学区内もしくは近隣緑地にて地域に即した自然体験活動を実施（体験内容に応じ1クラス2コマ程度）内容は学校の立地条件と学年に合わせ検討するが、普段観察することのできない多彩な野生動物や、伝承が途絶えてしまったかつての自然遊びなどに着目する。</p> <p>【発展～まとめ】</p> <p>知る、みる：地図や調査データなどを活用し、学区内の自然についてディスカッション（座学および眺望）（1クラス1コマ）。導入時に垣間見た自然を見る目を使いながら、学区の自然全体について俯瞰してみる。地域の自然環境の感動的なドラマや課題、保全の必要性について洗い出し、この先地域の自然環境の一員として何ができるか、自らが当事者意識を持ちながら確認してもらう。</p> <p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> </div> </div>
--

68 イルカ・クジラを知って海の環境を考えよう




一般社団法人ICERC Japan

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
○	○	○	○	○							○	○			○	○	○		○		
講義時間				1コマ						1日可能回数			(応相談)								
実施時期条件など				具体的な内容は、相談に応じてカスタマイズ可能。																	
実施地域																					
学校に用意してもら																					
安全上の注意事項																					
HP				https://icerc.org/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>大きさや質感、形を見て・触れることでイルカ・クジラの姿かたちを想像しながら、体の仕組みや生態とその多様性を知る。 生態からイルカ・クジラのくらす海の環境へと関心を広げ、生活の中でできる「イルカのいる海にやさしいこと」を考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>【アピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物を見たり、触れたりすることで、想像を膨らます ・「知識」の根っこを引き出し、新たな見解を見出す ・環境問題を自分事として捉える <p>【関連科目】小学4年：理科「水のゆくえ」社会「ごみはどこへ」「水はどこから」／小学5年：社会「環境をともに守る」道徳「自然を守る」／小学6年：理科「人や他の動物の体」「生き物と食べ物・空気・水」「人の生活と自然環境」社会「地球規模の課題の解決と国際協力」など 中学・高校：「特別活動」「総合」社会貢献など</p>	<p>【写真】</p>  <p>大きさや質感を体感し、形を見て・触れることでイルカ・クジラの姿かたちを想像する。</p>  <p>実物の大きさを体験</p>
--	--

授業の進め方



<p>【導入】</p> <p>クイズや解説により、イルカ・クジラとヒトの共通点や他の生き物との違い、多様性を知る。</p> <p>※「どの種類についてさらに知りたいか」など児童(生徒)から自由に質問してもらい形式をとり、一人ひとりの質問に応じてより深い知識を得ることも可能。</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>エサの食べ方や体のつくりなど具体的な生態を①イルカ・クジラの体長をロープやタペストリーを用いて体感し、②本物の歯や骨を虫眼鏡で観察したり触れたりするなど、体験を通して学ぶ。 まとめでは、①海ごみとイルカ・クジラの関係と問題を知り、②本物のマイクロプラスチックやごみの写真を見て「どうして海ごみがあるのか」を考察し、③解決するために自分に何ができるかを見つける。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくって使う循環型経済</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> </div> </div>

69 水のつながりを考えよう！海の水はどこからきてどこへいく！




一般社団法人ICERC Japan

対象学年						活用可能教科						実施方法			対応可否						
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
○	○	○	○	○							○	○			○	○	○			相談	
講義時間				1コマ						1日可能回数			(応相談)								
実施時期条件など																					
実施地域																					
学校に用意してもら																					
安全上の注意事項																					
HP				https://icerc.org/																	

授業のねらい・アピール

【ねらい】	【写真】
<p>「水」を通して、人の暮らしと海にすむイルカ・クジラの暮らしの関わりに気づき、環境問題を自分事として捉え、解決の糸口を掴めるようにする。</p>	 <p>大きさや質感、形を見て・触れることでイルカ・クジラの姿かたちを想像する。</p>
<p>【アピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識」の根っこを引き出し、新たな見解を見出す ・環境問題を自分事として捉える <p>[関連科目] 小学4年:理科「水のゆくえ」社会「ごみはどこへ」「水はどこから」「自然を生かしたまちづくり」/小学5年:社会「環境をともに守る」道徳「自然を守る」/小学6年:理科「人や他の動物の体」「生き物と食べ物・空気・水」「人の生活と自然環境」社会「地球規模の課題の解決と国際協力」など</p> <p>中学・高校:「特別活動」「総合」社会貢献など</p>	 <p>「水」を俯瞰的に捉え、視覚化することで、「生活と海とのつながり」が見えてくる。</p>

授業の進め方



【導入】
<p>海に暮らす人と同じ哺乳類であるイルカ・クジラの生態を知ることで、海の世界と生物に興味関心を抱かせ、自分事として捉えられるようにする。</p> <p>①クイズ ②大きさ体験 ③本物の骨や歯に触れる</p>
【発展～まとめ】
<p>「水」を俯瞰的に捉えひとつひとつの知識をつなげ、「生活と海の世界のつながり」を見出す。</p> <p>①個々で「水」のある場所を考え、グループまたはクラス全体で「水の世界」のイラストにマッピングする。 ②海岸に落ちているマイクロプラスチックなどを見て、海ごみが海岸にある理由を考え、グループごとにディスカッションする。</p> <p>まとめでは、①自身の学びを振り返り、学習して気づいたことや印象に残ったことをグループごとに共有。新しい発見や発想を生み出し、②海の世界を守るために「自分にできること」を考え、グループや全体で共有する。「ごみ拾いをする」「マイバッグ、マイボトルを持つ」など一般化されたことではない発想を引き出し、次の学びや生活に活かす力を育み、実行できることを目指す。</p>
【関連のあるSDGs】
  

70 クリーンアップ まちと海のつながりを考えよう




一般社団法人ICERC Japan

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不自由	言語障害											
○	○	○	○	○							○	○			○	○	○			相談	
講義時間				2コマ						1日可能回数			(応相談)								
実施時期条件など				具体的な内容は、相談に応じてカスタマイズ可能。																	
実施地域				クリーンアップの実施場所は町やビーチなど相談に応じる。																	
学校に用意してもら																					
安全上の注意事項				雨天延期。																	
HP				https://icerc.org/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>クリーンアップの実体験を通して、海ごみ問題を自分事として捉え、解決するために自分にできることを考え、行動できる力をつける。</p>	<p>【写真】</p>  <p>クリーンアップの様子</p>  <p>グループディスカッションの様子</p>
<p>【アピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実体験を通して学ぶ ・環境問題を自分事として捉える ・行動できる人になる <p>[関連科目] 小学4年:理科「水のゆくえ」社会「ごみはどこへ」「水はどこから」/小学5年:社会「環境をともに守る」道徳「自然を守る」/小学6年:理科「人や他の動物の体」「生き物と食べ物・空気・水」「人の生活と自然環境」社会「地球規模の課題の解決と国際協力」など 中学・高校:「特別活動」「総合」社会貢献など</p>	

授業の進め方

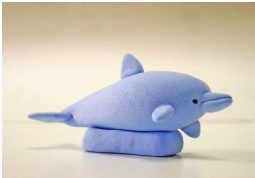

<p>【導入】</p> <p>海にくらすイルカ・クジラに思いを馳せて、海を身近に感じる。 ①クイズや解説により、海にくらす生き物(イルカ・クジラ)を知る。 ②どのようなごみが落ちているかを予想してカードに書き込む。</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>実際にごみを拾ったのち、「どのようなものが」「どのようなところに」落ちていたか予想と照らし合わせる。 グループディスカッションでは、①海ごみとイルカ・クジラの関係と問題を知り、②どうして海ごみがあるのか考え、③町と海のつながりを考えて、海ごみ問題を解決する糸口を見つける。 そして、解決するために自分に何ができるか、学んだことで誰に何を伝えたいかを考え、全体で共有する。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>11 持続可能な まちづくり</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさ を守ろう</p> </div> </div>

71 イルカと一緒に海の環境を考えよう




一般社団法人ICERC Japan

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
○	○	○	○	○							○	○			○	○	○				
講義時間				1コマ						1日可能回数			(応相談)								
実施時期条件など				少数クラスから対応可能。スタッフが粘土工作のサポートに入り、全員が学び尽くせるよう進行する。																	
実施地域																					
学校に用意してもら																					
安全上の注意事項																					
HP				https://icerc.org/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>指先を使った粘土で立体的にイルカの姿を作ることで、体の仕組みや生態を知り、生態から海の環境を学ぶ。 イルカを知ること、イルカのくらす海の環境へと関心を高め、生活の中でできる「イルカのいる海にやさしいこと」を考え、行動するきっかけをつくる。</p>	<p>【写真】</p>  <p>制作物見本</p>  <p>授業風景</p>
<p>【アピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが環境問題を自分事として捉え、行動したくなるきっかけをつくる ・楽しい！できた！を大切に進行し、ひとりひとりが意欲をもって取り組む <p>【関連科目】小学4年：理科「水のゆくえ」社会「ごみはどこへ」「水はどこから」／小学5年：社会「環境をともに守る」道徳「自然を守る」／小学6年：理科「人や他の動物の体」「生き物と食べ物・空気・水」「人の生活と自然環境」社会「地球規模の課題の解決と国際協力」など 中学・高校：「特別活動」「総合」社会貢献など</p>	




授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>海に暮らす人と同じ哺乳類であるイルカ・クジラの生態を知ること、海の環境と生物に興味関心を抱かせる。</p> <p>①クイズ ②大きさ体験</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>粘土で「イルカ」をつくり、体の形から、早く泳げる理由、魚との違い、食べ方、コミュニケーションのとり方、目や鼻の役割など行動・食性などの生態を学ぶ。 まとめでは、①海ごみとイルカ・クジラの関係と問題を知り、②どうして海ごみがあるのか考え、③解決するために自分に何ができるかを見つける。※小学4年以上は「海の環境を守るために自分にできること」を書く。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>12 つくって消費し、つくる責任</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> </div> </div>






72 はっぱはえらい 温暖化と木の働き 川崎市地球温暖化防止活動推進センター

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
相談	○	○	○	○							○				○	相談	○	○			相談
講義時間				1コマ						1日可能回数			(応相談)								
実施時期条件など																					
実施地域				川崎市、横浜市周辺																	
学校に用意してもら				大型TVorプロジェクター、ホワイトボード、メジャー(3m程度)、電卓、HDMI接続コード、100Vコンセント																	
安全上の注意事項				特になし																	
HP				https://www.kawasaki-syoene.com/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>地球温暖化とは何か、どうして起こるのか、その仕組みを知る。更に、はっぱ(木)の働きを知り、自然が温暖化の防止に貢献していることを理解し、節電・省エネの行動に取り組み、自然を大切にするキッカケづくりとする。</p>	<p>【写真】</p>  <p>CO2 吸収量の計算</p>  <p>温度、湿度の測定</p>  <p>蒸散の観察</p>
<p>【アピール】</p> <p>地球温暖化の仕組みと、はっぱの働き(自然の働き)との関係を分かりやすく説明。子ども達が実際に木の太さ測定し、自らその木が吸収しているCO2量を計算で求め「求めた吸収量」と「家庭で使う家電製品が排出するCO2量」とを比較する。子ども達は、これらの学習をとおして、はっぱの働きの偉大さを理解し、自然を大切にする心を育む。記憶に残る授業となる。</p>	

授業の進め方


<p>【導入】</p> <p>20分程度でパワーポイントを用いて、温暖化の仕組み、はっぱの働きを説明する。説明は質疑応答形式で進め、理解を深める。</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>20分程度で校庭などの木から、マイツリーを選んで、その木の幹の太さを実測する。その幹の太さからその木が吸収するCO2量を計算して求める。その吸収量と家電の使用で排出するCO2量とを比較して、はっぱの働きを理解する。その後、5分程度で、質問を受け、感想を話してもらいながら、まとめる。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> </div> </div>

79 足もとの自然を楽しもう


NPO法人フォーラム・アソシエ

対象学年											活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校							理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害	自閉情緒障害											
○	○	○	○	相談	○	○	○	相談	相談	○	○				○	○		相談	○			
講義時間				応相談							1日可能回数			(応相談)								
実施時期条件など																						
実施地域																						
学校に用意してもら				救急セット																		
安全上の注意事項				キリなど道具の使用をすることがある																		
HP				https://forum-associa.jimdoweb.com/																		

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>学校や近所の公園で、いつも見ている植物を新しい角度から見ることで、新しい発見、気づき、疑問を促す。 身近な自然素材を五感で体験することで、自然の情報を体で感じる。</p> <p>【アピール】</p> <p>学習指導要領にある、社会及び自然との関わりによって感覚を豊かにする方法を、遊びながら体験してもらう。 周辺環境を遊び学ぶことで、地域への愛着、季節の移り変わり、自然への興味関心を広げる。 講師は、森林インストラクター、自然あそびインストラクターなど、自然に造詣の深いメンバーが行う。 校庭や遠足先の公園など、下見をしてどんな植物があるか確認するので、同行していただく先生の学びも深まる。</p>	<p>【写真】</p> 
--	--

授業の進め方


<p>【導入】</p> <p>最近気が付いた自然についてなどのやり取りを行ったり、季節の絵本を読んだりして、子どもたちと講師の距離を縮めて活動をやすくする。 目的・注意点を伝える</p> <p>【発展～まとめ】</p> <p>低学年のせいかつ単元では、テーマごと(季節さがしなど)自由に探す体験活動がメインとなる。活動場所で五感を使い、今まで見えていなかった新しい視点から自然の発見や体験をする。 高学年では、より学習を意識し、地域の自然と暮らしの関わり、身近な環境について、またいつもと異なる環境で自然を考える。 活動後、振り返り、質疑応答を行う。</p> <p>【関連のあるSDGs】</p> 

80 どんぐりはかせになろう

NPO法人フォーラム・アソシエ

対象学年											活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校							理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害	自閉症											
○	○	○	○	相談	○	○	○	相談	相談	○	○	○			○	○	○	相談	○			
講義時間				応相談								1日可能回数			(応相談)							
実施時期条件など				9月以降																		
実施地域																						
学校に用意してもら				救急セット																		
安全上の注意事項				キリなど道具の使用をすることがある																		
HP				https://forum-associa.jimdoweb.com/																		

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>身近などんぐりについて、たくさんの活用法があることを知ってもらう。種類について、遊びについて、遊び以外の活用について。</p>	<p>【写真】</p> 
<p>【アピール】</p> <p>小学校低学年ではおなじみの自然素材であるどんぐりだが、教師が拾ってきたどんぐりで、やじろべえとどんぐりごまの制作で終わってしまうことが多い。種類、生態、食物連鎖、どんな活用ができるのか。下処理方法や、遊び、食べ方、木材としての活用まで、どんぐりの秘密を知ればさらに身近に感じる。講師はどんぐりのイベントを主催し、どんぐりを使ったおやつを製造する経験を持つ。</p>	

授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>どんぐりがどんなものか、簡単なクイズで子どもたちとの距離を縮める</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>どんぐりの種類がわかる表を利用し、どんぐりがどんなものなのかを学ぶ。実際に校庭や近所の公園でどんなどんぐりがあるか観察、かんたんなおもちゃに触れたり、食べたり、活用法を知る。質疑応答。数名の感想をもらう。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> 